

事務事業評価表（公共施設）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 31日
2次評価日（課長等）	26年 3月 31日

1 事業名	学童クラブ運営事業			コード	102201	
2 担当部課	部等	教育部	課等	生涯学習課	作成者	立道 一嘉
3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち			
		政策	生涯学習の推進	施策	青少年の健全育成	
		予算科目	学童クラブ運営事業費、報酬給与費/学童クラブ整備事業費	業務委託	なし（直営）	
		実施義務	あり（義務的・標準的事业）	国県補助	あり	
		設置条例	岡谷市学童クラブ条例			

●事業の内容（D0）

4 施設の概要・設置目的	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
施設の概要（簡潔に）	市内各小学校に10学童クラブを設置		
目的	対象者	保護者が昼間就労等により、家庭にいない小学校1年生～3年生の児童等	
	意図	適切な遊び及び生活の場を与え、その健全な育成を図る。	

5 施設の管理運営状況				
指定管理者			25年度指定管理料	円
施設における通常業務	入所児童の生活指導、安全の確保 児童等の自主性、社会性及び創造性の助長の確保 家庭や学校との連絡の確保			
事業の実施内容	<p>（25年度に施設で行った運営事業・自主事業など）</p> <p>○児童福祉法（昭和22年法律第164号）第34条の8の規定に基づき、岡谷市学童クラブの設置及び管理運営を行う。</p> <p>○開設日 学校登校日10学童 学校休業日10学童年間平均32日、土曜日48日</p> <p>○開設時間 学校登校日 下校後から午後6時30分まで 学校休業日・土曜日 午前8時から午後6時30分まで</p>			
前年度の課題への対応	施設改善や高学年の受け入れについては、平成26年度に子ども子育て支援事業計画策定の中で検討を進めていく。			

6 施設の利用状況	*②・③はどちらかの欄に記入			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 施設稼働率	100.0%	100.0%	100.0%	
年間開設日数（日）	2,902	2,870	2,880	2,880
1日の開設時間（時間）	0	0	0	0
年間利用可能時間（時間）	19,702	19,785	19,871	19,871
年間利用実績（時間）	19,702	19,785	19,871	
② 年間利用者数（人）	58,587	51,772	60,734	60,600
有料利用者数	45,396	40,637	46,224	46,000
無料利用者数	6,569	3,855	7,826	7,800
減免措置者数	6,622	7,280	6,684	6,800
③ 年間利用件数（件）	0	0	0	0
有料利用件数				
無料利用件数				
減免措置件数				
④ 1日あたり利用者数、件数	20.2	18.0	21.1	21.0
⑤ 施設利用状況の説明				

7 コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	98,633,511	42,668,201	43,806,714	43,560,000
経常経費	42,053,237	42,668,201	42,413,364	43,560,000
臨時的経費	56,580,274	0	1,393,350	0
* 臨時的経費の説明	平成25年度臨時的経費は、2学童クラブへのエアコン設置費			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
② 人件費	6,400,000	6,400,000	7,200,000	8,800,000
正規職員の人数(人)	0.80	0.80	0.90	1.10
③ 合計コスト(①+②)	105,033,511	49,068,201	51,006,714	52,360,000
前年度比		46.7%	104.0%	102.7%
財源内訳				
一般財源	25,602,111	19,951,501	20,173,514	18,658,000
特定財源	79,431,400	29,116,700	30,833,200	33,702,000
* 特定財源の説明	学童クラブ使用料、督促手数料、放課後児童健全育成事業補助金			
④ 施設使用料年間収入額	12,330,600	11,561,700	13,030,200	12,700,000
⑤ 年間減免措置額	827,800	970,900	1,000,000	
⑥ 受益者負担割合	13.3%	29.4%	32.0%	29.2%
⑦ 活動一単位あたりコスト	827	948	817	
前年度比		114.6%	86.2%	
⑧ コストに関する補足説明				

●事業の評価 (CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性＝行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間（企業、NPO、市民団体等）へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間（企業、NPO、市民団体等）が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性＝施設の利用状況（項目6／住民の満足度）は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、事業の内容に反映している。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ 施設の利用者が増加した。	1	
1日あたり利用者数、件数	前年度比 116.9%	
⑤ 施設使用料収入が増加した。	1	
施設使用料年間収入額	前年度比 112.7%	

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

(施設の有効活用、施設サービスの向上、利用状況の向上を図る上で、現在課題になっていること)

課題	国の子ども子育て支援法の地域子育て支援事業ととして、利用者のニーズを捉える中で計画的に進めていく。その中で児童福祉法が改正され、対象が小学生全体に拡大されたことに伴い、6年生までの利用について施設の拡充と合わせ検討を進める。
改善方法	計画的な事業推進
改善開始時期	平成26年4月から

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	A
13 大規模修繕の予定			
予定事業費	円	予定時期	
内容			